



デジタル文書の 多層的セキュリティ管理

ファイル保護、コンプライアンス、アクセシビリティを強化



目次

文書のセキュリティに関する重要な考慮事項	3
組織全体で文書のセキュリティをサポート	4
常に最新の基準や法律に対応	5
最高水準のセキュリティおよび コンプライアンス機能で重要な文書を保護	8
自動化によりセキュリティ、コンプライアンス、アクセシビリティを向上...	9
エンタープライズグレードのセキュリティと効率性を実現.....	10

文書のセキュリティに関する重要な考慮事項

今日のハイブリッドな職場環境では、デジタル文書のセキュリティ管理がこれまでになく重要になっています。アドビの推計では、現在、全世界に3兆を超えるPDFがあり、その膨大な量のファイルと、企業や個人のデバイス、ネットワーク、クラウド、アプリ、サービスにわたる様々なアクセス方法の組み合わせにより、ビジネスに不可欠な文書の保護が困難になっています。また、複数のツールの管理は、時間と費用の両面でIT部門に負担がかかる可能性があります。

セキュリティの脅威は、偶発的な情報漏洩やシステムの脆弱性から、意図的なデータ侵害、ハッキング、フィッシング攻撃まで多岐にわたります。保護されていないPDFは、知的財産、個人を特定できる情報、機密データが盗まれるリスクを高め、経済的に深刻な影響を与えるだけでなく、風評被害や信用の失墜にもつながります。

考慮すべきもう1つの重要な要素は、業界の規制、法的要件、セキュリティフレームワーク、契約条件の遵守です。コンプライアンス基準を満たしていない文書は法的リスクを引き起こし、厳しい罰則が科せられる可能性があります。デジタルアクセシビリティに関する法律の整備も世界中で進められており、これらの要件を満たさない場合、多額の費用がかかる訴訟や主要な従業員や顧客グループの排除につながる可能性があります。

すべての文書に対するセキュリティの脅威を阻止することは不可能ですが、適切なツールを使用することで、意図的でない侵害と悪意のある侵害の可能性が大幅に減少し、潜在的な影響を最小限に抑えることができます。さらに、デジタルソリューションは外部の規制や標準の遵守を効率化し、デジタルアクセシビリティの向上に役立ちます。

Adobe Document Cloud エンタープライズ版は、Adobe Acrobat、Acrobat Sign、Acrobat Servicesを含んでおり、文書のセキュリティに対する堅牢な多層アプローチを特徴としています。これにより、貴重な情報の保護と、常に変化する厳格な規制への対応に関して大規模な組織が直面する固有の課題に対処できます。ファイルの作成、使用、レビュー、承認、保護に対応した統合ソリューションである Document Cloud エンタープライズ版を使用することで、組織は効率的かつ確実にビジネスを推進できます。

このeBookでは、組織が Document Cloud エンタープライズ版を使用して、ドキュメントのライフサイクル全体にわたってセキュリティリスクを軽減し、コンプライアンス要件を満たすとともに、すべてのユーザーにアクセシビリティを提供する方法を説明します。

アドビの推計では、現在、全世界に

3兆個を超えるPDFが

存在しています

データ出典：Abhigyan Modi, “Celebrating 30 Years of Digital Transformation with Adobe Acrobat,”
Adobe Blog, June 15, 2023.

組織全体で文書のセキュリティをサポート

PDFは、ハイブリッドおよびリモートワーク環境におけるビジネス運営の中心です。2022年には、ユーザーは4,000億を超えるPDFを開き、80億を超える電子サインおよびデジタル署名トランザクションをアドビソリューションで処理しました。

特に組織が拡大し、新しい顧客を獲得する場合には、これらの文書関連プロセスの効率化が不可欠です。増加するフィッシング攻撃を防御し、PDFとMicrosoft 365の添付ファイルの完全性を検証することは、企業のデータを保護し、リスクを回避するために最も重要です。

アドビは、30年以上にわたって安全なデジタル文書の共同作業を推進する企業として、組織が今日直面している幅広いセキュリティの課題に対処する包括的な文書保護アプローチを提供しています。この多層モデルには、以下の機能が含まれます。

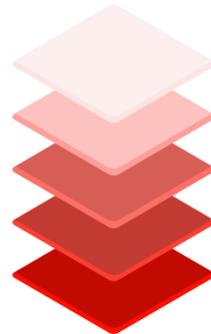
アドビのセキュリティ

ソリューション固有のセキュリティ機能

情報の保護

アクセス管理

安全なリンクの共有とクラウドストレージ



このような多層的なセキュリティにより、組織が特定の業界やコンプライアンスのニーズにもとづいて文書のセキュリティ戦略を設計できる強力なアプローチを実現します。

アドビの文書セキュリティソリューションは、業界をリードするイノベーションと強力な統合で世界的に認知されており、Microsoftはアドビを2023 Security Independent Software Vendor (ISV) of the Yearに指名しました。

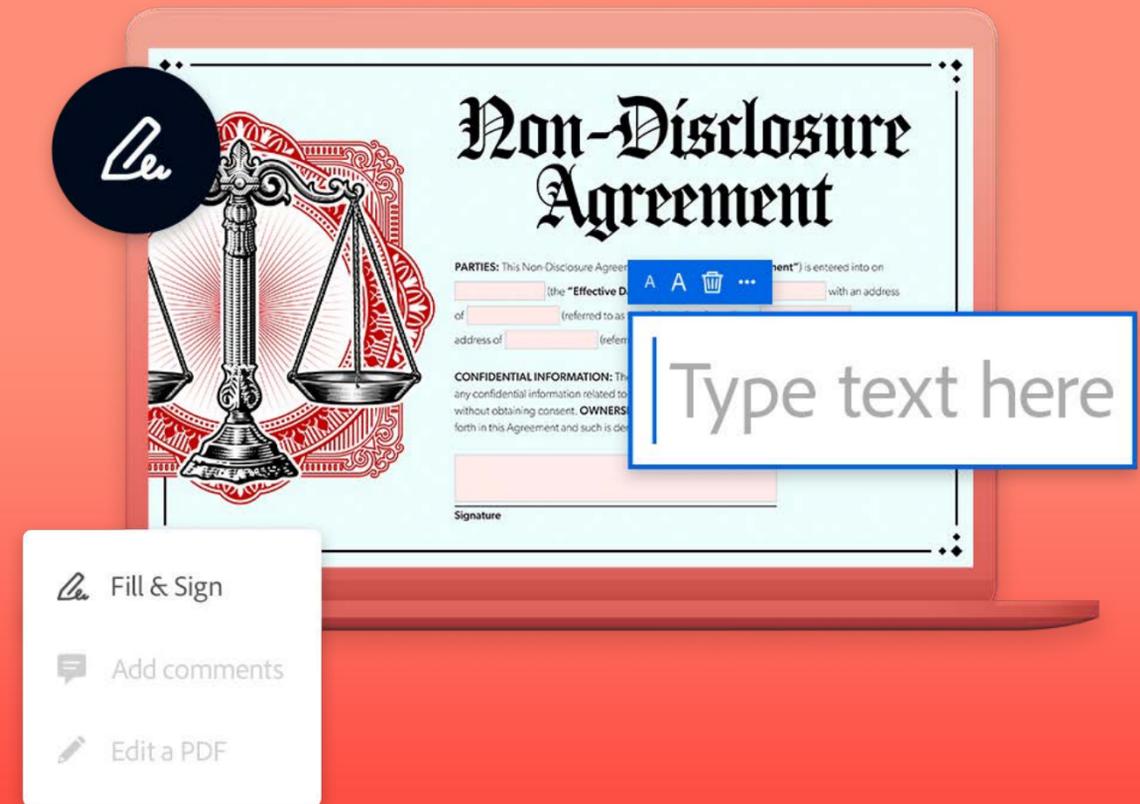
- ・ **アドビのセキュリティ。** アドビのセキュリティは、刻々と変化するサイバー攻撃の脅威に対して回復力を備えた製品の開発とアップデートに取り組んでいます。Document Cloudエンタープライズ版のソリューションは、設計、開発から品質保証、デプロイに至るまで、Adobe Secure Product Lifecycle全体を通じて厳格なテストを受けています。アドビは、継続的な脅威インテリジェンスと監視、脆弱性スキャン、脅威対応チームによる迅速なインシデント対応、信頼性の高いアップデート、透過的なコミュニケーションに取り組んでいます。機密情報を保護し、リスクを軽減するためにその役割を果たすよう努めていることについて、組織はアドビを信頼できます。
- ・ **ソリューション固有のセキュリティ機能。** Adobe Acrobatには、PDFのプライバシーを確保するために、サンドボックスと呼ばれる制限された環境内で実行される保護モードや保護ビューなどの高度な保護機能が含まれています。また、JavaScriptの権限およびリンクや添付ファイルを許可または禁止するオプションなどの強化されたセキュリティ制御も用意されています。
- ・ **情報の保護。** ビジネスデータの安全性を確保するために、Document Cloudエンタープライズ版のソリューションには暗号化機能とパスワード保護機能が搭載されており、指定された受信者のみが特定のコンテンツを読み取ることができます。証明書を使用してドキュメントを保護し、必要に応じて機密情報やメタデータを墨消しできます。Microsoft Purview Information Protection (MPIP) との統合や、Adobe PDF Electronic Seal APIなどの自動化により、文書の完全性を確認する新しいレベルのセキュリティが提供され、プロセスも効率化されます。
- ・ **アクセス管理。** アドビソリューションでの権限の指定により組織は文書を適切なユーザーに送信できます。エンタープライズモバイルティマネジメント、シングルサインオンオプション、信頼できるコンテンツや場所を指定する機能により、ユーザーIDや認証を監視できます。
- ・ **安全なリンクの共有とクラウドストレージ。** クラウドストレージを使用すると、ファイルへのアクセス、共有、レビュー、保存が容易になり、ユーザーは添付ファイルではなくクラウドへのリンクを使用して作業できるようになります。アドビのクラウドストレージは、北米、ヨーロッパ、日本に地域データセンターがあり、データの保存場所、セキュリティ、法規制へのコンプライアンスを提供しています。Microsoft SharePointやOneDrive、Google Drive、Boxなどの信頼できるストレージソリューションと統合することで、既存のテクノロジー投資を活用し、使い慣れたソフトウェアで文書管理を効率化できます。

常に最新の基準や法律に対応

Adobe AcrobatとAcrobat Signが提供するコンプライアンス確認機能により、ビジネスリーダーは文書を法律や業界要件に準拠した状態に保つことができるため安心です。世界をリードするPDFおよび電子サインツールとして、これらのソリューションは、ビジネスをおこなう場所を問わず、拡大する規制に柔軟に適応できるように設計されています。

電子サインに関する法律は国によって異なり、業界標準は絶えず変化しているため、AcrobatとAcrobat Signを使用することで、コントロールを標準化およびカスタマイズできます。このため、コンプライアンスへの対応に時間を費やす必要がなくなり、価値の高いビジネスタスクに集中できるようになります。このソリューションは、電子文書交換に関する国際標準化機構 (ISO) 32000規格に加え、一般データ保護規則 (GDPR)、Health Insurance Portability and Accountability Act (HIPAA)、Family Educational Rights and Privacy Act (FERPA)、Gramm-Leach-Bliley Act (GLBA) などの特定の規則にも準拠しています。また、Acrobatは、連邦情報処理標準 (FIPS) 140-2モードの暗号化によるデータ保護に関する、米国標準技術研究所 (NIST) の要件にも対応しています。

Acrobat Servicesは、組織がインクルーシブでわかりやすい、自動化された文書エクスペリエンスを提供するのにも役立ちます。これらのツールは、文書修復プロセスを効率化し、ファイルをアクセシビリティに関する法律に準拠した状態に保つのに役立ちます。誰にでも読みやすくするために文書を更新する場合は、Adobe PDF Accessibility Auto-Tag APIを使用して、スクリーンリーダーなどの支援技術用のコンテンツタグを正確かつ大規模に適用できます。



AcrobatとAcrobat Signを使用することで、コントロールを標準化およびカスタマイズできるため、コンプライアンスへの対応に時間を費やす必要がなくなり、価値の高いビジネスタスクに集中できるようになります。



“ Acrobat Sign は、セキュリティと使いやすさの点で当社のビジネス要件に最適でした。当社の [電子文書管理] システムとのインターフェイスも簡単に作成できたため、理想的な操作性になりました

BMW Group France、IT デリバリー マネージャー、François Houdeau

コンプライアンス対策を管理してリスクを軽減し、結果を推進

BMW Group France は、4つの部門に約1,000人の従業員を抱えており、国際的に展開し、データセキュリティおよびGDPRやelectronic identification, authentication, and trust services (eIDAS) 規則への準拠をサポートするために使用できるデジタル文書と電子サインのソリューションを必要としていました。同社はAcrobat Signに注目し、アドビと提携してワークフローを最新化してドキュメントのセキュリティを強化しました。

「Acrobat Signは、セキュリティと使いやすさの点で当社のビジネス要件に最適でした」と、BMW Group FranceのITデリバリー マネージャーであるFrançois Houdeau氏は述べています。「当社の [電子文書管理] システムとのインターフェイスも簡単に作成できたため、理想的な操作性になりました」

BMW Group Franceは、アドビのエンタープライズ向け電子サインソリューションを採用することで、署名にかかる時間を1か月から1~2日に短縮し、契約管理プロセスを効率化しました。また、Acrobat Signでコントロールを割り当て、このソリューションを使用して文書をより確実に封印することで、コンプライアンスのリスクも軽減します。

「これは法的な観点から非常に重要です。すべてのページにイニシャルサインがおこなわれ、別表が欠落していないことを確信できるからです。誰が、いつ署名したのか把握できます」とBMW Group FranceのBMW Finance Group 上級法律顧問Carole Payan-Kokkinos氏は語ります。

これらのセキュリティ対策により、組織の評価が高まり、文書のライフサイクル全体で生産性が向上し、新たな関係者に信頼が生まれました。「Acrobat Signを使用して電子サインを導入することは、競合他社との競争において不可欠でした」と、BMW Group FranceのAlphabet部門のブローカーセールスマネージャー、Marie Chauland氏は述べています。「これにより、ビジネス発見者に非常に迅速に対応できるようになり、この急成長する分野に対するグループの自信が示されました」

BMW Group Franceは、この電子サインソリューションを欧州レベルに拡大して、プロセスを戦略的目標に合わせて調整し、ユーザー認証を強化する予定です。

機密情報を保護

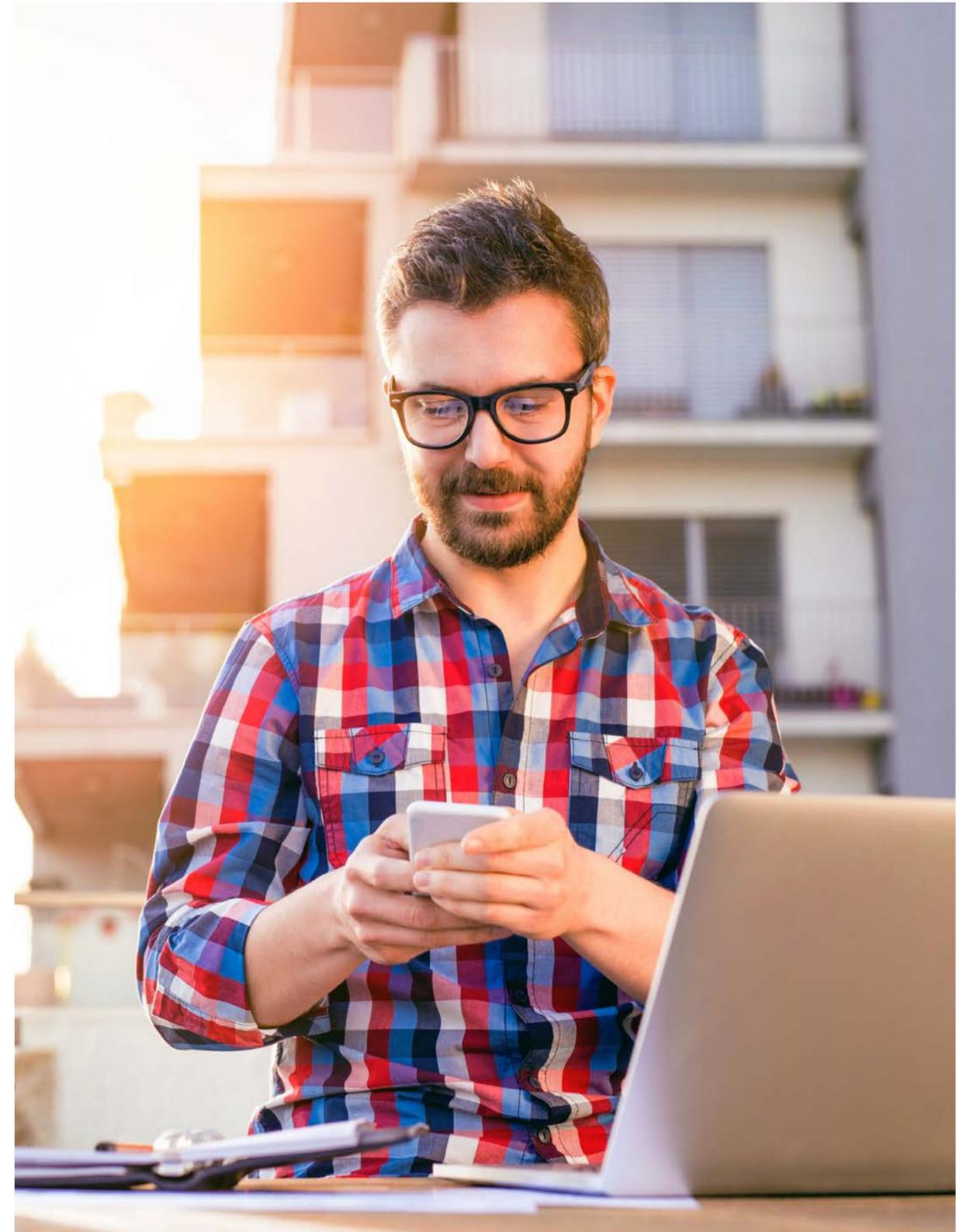
Adobe Acrobatは、デジタル文書を介して機密情報を安全に交換するための独自の機能を備えています。金融機関などの多くの業種では、日常的な取引において厳しい規制を遵守し、個人データの不正な暴露を防ぐことが求められています。

4億ドルを超える資産を管理する未公開株式投資会社であるSturbridge Capitalは、PDFの保護を簡素化し、Microsoft Purview Information Protectionと統合するソリューションとしてAdobe Acrobatを採用しました。同社は既にMicrosoftアプリを使用して機密文書を生成していましたが、PDFを介した共有と共同作業のプロセスを効率化する必要がありました。外部の関係者は、プラグインをインストールしないと保護されたファイルにアクセスできず、時間と研修のリソースが限られているため、全員が同じ情報を共有することが困難でした。

Sturbridge Capitalは、Acrobatをワークフローに組み込むことにより情報の保護を3回のクリックに集約することができ、従業員とパートナーの両方にとって文書の保護とアクセスが容易になりました。この統合ソリューションは、ハイブリッド作業環境の様々な要素にわたるデータの安全な交換にも対応しました。

「Microsoftとアドビのおかげで、当社の文書保護のレベルは飛躍的に向上しました。操作は誰にとってもシンプルかつ容易で、問題なく機能しています」と、同社の業務およびIT担当副社長、David Poirier氏は述べています。「お客様や金融業界の規制によって求められる厳格な保護を提供しながら、ユーザーにとっては簡単で使いやすく便利なツールです」

Poirier氏は、情報保護システム内の直観的なフレームワークとストレージ制御により、ユーザーはバックエンドの複雑さを気にすることなく、文書を簡単に操作できると語っています。「[当社は] 自社の規模でソリューションを導入でき、手頃な価格でソリューションのデプロイと構成をおこない、導入の目標をすぐに達成しました。これは、このソリューションがいかにうまく機能しているかを物語っています」



最高水準のセキュリティおよびコンプライアンス機能で重要な文書を保護

Document Cloud エンタープライズ版は、問題の兆候に対処するだけでなく、根本原因を突き止めることを目的とした総合的なセキュリティおよびコンプライアンス機能を備えています。これらの強力なツールは、文書ワークフロー全体で十分な適用範囲と構成を確保し、組織が成長して潜在的な脅威に対処するための効果的でセキュリティがあらかじめ確保された基盤を確立するのに役立ちます。

ここでは、デジタル文書プロセスを強化する最も重要な機能のいくつかを詳しく見ていきます。

- ・ **安全な最新のPDF機能。** Acrobatの動的なインフラストラクチャにより、ファイルの共有、複数のユーザーからのコメントの収集、パスワードと権限の管理、ファイルのロック解除、バージョンの比較が可能になります。モバイル機能を使用して外出先でもPDFの編集、変換、共有、署名ができ、テンプレートとブランド化されたエクスペリエンスによってワークフローを効率化できます。
- ・ **日常的なアプリ間の統合。** Acrobat、Acrobat Sign、Acrobat Services と、Microsoft 365、Salesforce、Workday、Googleなどのソフトウェア間での統合があらかじめ用意されているため、ファイルに対してスムーズかつ連携した共同作業ができます。このエコシステムではアプリ間を移動する必要がないため、貴重な時間を節約し、最初から最後までプロセスを簡略化できます。
Microsoft Word、PowerPoint、Excel、Teamsなどのツール内でPDFを作成して共有できます。また、ユーザーはMicrosoft Purview Information Protectionの秘密度ラベルを適用して機密データを保護することや、Acrobat ServicesのPDF Services APIをMicrosoft Power Automateに接続して、ほとんどコーディングせずに好みのワークフローを作成することもできます。
- ・ **高度なPDFの保護。** Acrobatの保護モードを使用すると、ユーザーはサンドボックスアプリケーションプロセスを使用してすべての画像とPDFを処理し、JavaScriptを実行できるため、脆弱性を制限し、信頼できる環境内でワークフローを維持できます。保護ビューにも同様の制限

があり、サンドボックス内で基本的なナビゲーションのみが有効になります。Acrobatが提供するPDFの保護機能により、JavaScriptの有効化や無効化に関するカスタマイズ可能な信頼設定、添付ファイルから他のファイルを開く操作やアプリケーション起動の防止、ブロックリストに登録されているファイルタイプへのアクセスに関する警告の設定ができるようになります。

- ・ **本人確認。** Acrobat SignのデジタルIDゲートウェイを介して、組織は事前設定された様々なサードパーティのデジタルIDプロバイダーからID認証方法を選択できます。電子メール認証と二段階認証オプションも署名の整合性を保証するのに役立ちます。さらに警戒レイヤーを追加する場合は運転免許証やパスポートなどの官公庁発行のIDを要求する方法も選択できます。

Adobe PDF Electronic Seal APIを使用して、安全なデジタル版のゴム印を適用することもできます。eシールはデジタル証明書によって裏付けされ、クラウド署名コンソーシアム（CSC：Cloud Signature Consortium）準拠のトラストサービスプロバイダー（TSP）によってホストされるもので、デジタル文書において組織の身元を保証します。

- ・ **アセットの再利用。** ユーザーが組織を退職した場合、Adobe Admin Consoleを使用するとライセンスの管理とアセットの再利用が容易です。非アクティブなアカウントや不正アクセスについて心配する必要はありません。ユーザーの削除とアセットの移行は迅速かつ簡単です。

自動化によりセキュリティ、 コンプライアンス、 アクセシビリティを向上

自動化により、データが安全で業界規制に準拠していることをより確信しながら、文書のライフサイクル全体にわたって日常業務を大規模に効率化できます。例えば、従業員ごとに文書を手動で作成する場合、共通の請求書や従業員へのレター（実績のレビューや報酬の更新など）の作成は大変な作業になる可能性があります。これらの文書には、誰もが編集したりアクセスしたりすべきではない機密性の高い財務情報も含まれています。Acrobat ServicesのAdobe Document Generation APIとAdobe PDF Services APIを使用すると、標準テンプレートを使用して人事システムに保存されているデータを自動的に入力し、パスワード保護によって変更や不正アクセスを防止できます。

PDF Electronic Seal APIを使用すると、自動的に「eシール」を適用して文書をさらに保護できます。これらのシールは、画像やテキストブロックなどのデジタル証明書を使用して、文書の真正性を確保し、改ざんを検出します。これにより、チームは権限を持ってIDを認証し、電子サインを安全に拡張できます。

文書のセキュリティとコンプライアンスに関連するもう1つの緊急の優先事項はデジタルアクセシビリティです。現在、総人口の約16%が重大な障がいを抱えています。組織はアクセシビリティを念頭に置いてPDFプロセスを検討する必要があります。インクルーシブであることだけでなく、増大する法的な要件も遵守することが重要です。

アドビは、自動化されたタグ付けと強化されたファイルの読み取りおよび署名エクスペリエンスを通じて、PDFのユニバーサルアクセシビリティをサポートします。Document Cloudエンタープライズ版に含まれる3つの固有のアクセシビリティ機能について詳しくは、サイドバーをご覧ください。

すべてのユーザーに対して PDFのアクセシビリティをサポート



Adobe PDF Accessibility Auto-Tag API

自動化によりPDFのアクセシビリティをより正確に調整します。このツールは、コンテンツタイプを自動的に検出し、スクリーンリーダーなどの支援技術をサポートするためにコンテンツタイプにラベルを付け、コンプライアンスを迅速にチェックできるようにします。文書構造タグを識別して読み取り順序を示し、割り当てられた文書ワークフローとタグ付けオプションを使用してタグ付けプロセスを高速化します。



アドビのLiquid Mode

この機能は、小さな画面向けにPDFを最適化し、より読みやすい形式を作成します。Liquid Modeのレスポンシブなコンテンツページのおかげで、ユーザーは必要に応じてスマートフォンやタブレット上でファイルをズームインしてテキストを大きく表示できます。



Adobe Acrobat アクセシビリティ設定アシスタント

アクセシビリティの環境設定は、Acrobat アクセシビリティ設定アシスタントで簡単に割り当てることができます。このツールは、支援ソフトウェアとデバイスの設定を構成するために、画面上に手順とダイアログボックスを表示します。

Acrobatには、アクセシビリティ標準への準拠を確認し、読み上げる順序とテキストから音声への変換の精度をレビューできるアクセシビリティチェックツールも用意されています。

エンタープライズグレードのセキュリティと効率性を実現

組織が拡大し、ハイブリッドな作業環境に移行するにつれて、リーダーはデジタル文書のセキュリティを強化して、貴重なデータを保護し、法的リスクを軽減するとともに、コンプライアンスとアクセシビリティを確保する必要があります。デジタル文書のワークフローは今日の情報交換に不可欠であり、接続され拡張可能なソリューションを採用することが成功の鍵です。

Adobe Document Cloud エンタープライズ版は今日のセキュリティ課題に取り組むのに最適です。文書保護とコンプライアンス機能の完全なスイートにより、組織は文書の安全性を強化し、適切な人材、プロセス、テクノロジーが配備されていることを確認できます。リーダーは、ファイルが最高レベルのセキュリティ基準を満たしていることを信頼し、ビジネスをより生産的に遂行できます。

Adobe Acrobat、Acrobat Sign、Acrobat Services を使用することで、組織はリスクを軽減しリソースを節約しながら、あらゆるタッチポイントでプロセスを拡張できます。このソリューションの多面的なアプローチと統合機能により、チームは管理上の負担を最小限に抑えながら、投資収益率を最大化できます。

文書のセキュリティを強化して組織で信頼できる環境を実現してください。



アドビが選ばれる理由

1982年以來、PDFの発明者であり信頼される世界的リーダーとして、アドビは総合的な文書管理を実現する強力かつ最新のソリューションを提供しています。アドビのPDFおよび電子サインツールは、セキュリティを犠牲にすることなく、大規模なプロセスを簡略化します。

Adobe Document Cloud エンタープライズ版は、安全でコンプライアンスに準拠したプロセス、効率的なワークフローに加え、チーム、場所、デバイスに依存しない強化された共同作業を可能にすることで、テクノロジーへの投資を最大化し、収益を向上させるのに役立ちます。Adobe Acrobat、Acrobat Sign、Acrobat Sign Servicesを使用することにより、文書プロセスとソフトウェアを統一し、Microsoftのアプリ、Google、Dropboxなど、既に使用しているツールと統合できます。

Document Cloud エンタープライズ版が組織のセキュリティ、コンプライアンス、アクセシビリティの向上にどのように役立つかについて詳しくは[こちら](#)を参照してください。

[お問い合わせ](#)

出典

Abhigyan Modi, “Celebrating 30 Years of Digital Transformation with Adobe Acrobat,” Adobe Blog, June 15, 2023.

「Document Cloud サービスがプラスされた Adobe Acrobat のセキュリティ概要」、2023年。

“Adobe Application Security Overview,” 2022.

“Adobe PDF Electronic Seal API,” Adobe Developer.

“BMW Group France Digitalizes its Business Processes with Adobe Acrobat Sign,” Adobe customer success story for BMW Group France.

“Build Low-Code, End-to-End Document Automations Easily,” Adobe Developer.

「デジタル ID ゲートウェイ」、Adobe HelpX Guide、2023年7月20日。

“Disability,” World Health Organization, March 7, 2023.

“FIPS Compliance,” Security Configuration Guide for Acrobat.

Gauri Bhat, “Adobe Acrobat Drives Secure Information Exchange in Just 3 Clicks,” Adobe Blog, April 26, 2023.

「AcrobatでのMicrosoft Purview Information Protectionのサポート」、Adobe HelpX Guide、2023年1月23日。

Nora Yau, “Making PDFs Accessible to All,” Adobe Blog, May 17, 2023

「ユーザーのアセットの再利用」、Adobe HelpX Guide、2023年7月24日。

“Sandbox Protections,” Security Configuration Guide for Acrobat.

“The Adobe Secure Product Lifecycle (SPLC),” Adobe.

Tulika Gupta, “Adobe Acrobat Recognized as a Finalist for the 2023 Microsoft Partner of the Year Award,” Adobe Blog, June 27, 2023.



Adobe, the Adobe logo, Acrobat, the Adobe PDF logo, and Document Cloud are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.

© 2023 Adobe. All rights reserved.